

御中取締覚書

覚

一此度鹿の袋角御用ニ付、川津村領之山ニ而致追狩候間、村々十五才以上六十以下之人数不残、十六日朝七ツ過、年寄中相添、川津村へ集可被申事

一こもり候林山を見立、十町四方か十五町四方人数ニ応じ狩場を極、大廻りより人数を入声を立、川面江鹿を追出し可被申事

一功者成猟師者鉄炮を持、川面にひかへ流打可仕候事

附、不功者成猟師八セこに交り、山之内ニ而折々おとし鉄炮を打追出し可申事

一庄屋・年寄中八人足鉄砲打を引廻し致差図、鹿を追出し可被申事

一庄屋中八十五日夕より川津村へ参可被致一宿候、尤一村切ニ猟師何人、人足何十人と書付差出可被申候、罷帰可申上候事

右此度之御用八御大切成御用ニ而候、冥加のために候間、随分精出し取候間、差上可被申候、油断有間敷候、以上

未五月十五日

高田牧右衛門印

十津川下組中